

# 潮音寺だより

第 251 号  
平成 16 年 9 月  
電話 052-671-4831  
ファックス 052-671-4856

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11



お気づきなさい

生きとし生けるもの  
仏となる因の  
有ることを

お気づきなさい

生きとし生けるもの  
仏となる縁の  
有ることを

もちろん  
私にも

そして  
あの人にも  
この人にも

その因と縁に  
感謝の心で  
手を合わせなさい

## 十句観音経

二二数月で、左目の乱視の度が急激に進んでしまい、眼鏡のレンズを替えたのですが、どうもしっくりいたしません。とくに、新聞や本、パソコンのモニターの文字が見づらくて、眼科に行きましたところ、あっさり、「老化」で片づけられてしまいました。情けないことですが、これからは、目だけに限らず、「この「老化」と、仲良く付き合っていかなければならないようです。

ただ、仲良くすることは、人間関係においても、好き同士ならまだしも、なかなか難しいものです。まして、出来れば避けて通りたい、「老い」・「病」・「死」と仲良くしろといわれても、自分の内にあるものからは、逃げるに逃げられず、た

だ、苦しただけが募ることになります。やはり、ここは、仏の智慧をお借りせねばなりません。

仏教経典を紐解くといいますが、長くて難しいという印象が強いかもしれませんが、しかし、わずか十句、四十二文字の最も短い仏教経典として知られる『十句観音経』に目を向けてみましょう。

この経典は、中国で冤罪で死刑を宣告された人が、夢の中で教わったものだと言えられる偽経（サンスクリット語の原典がないもの）に分類されるものですが、何度も、ただ唱えるだけで「利益を得られる」とされ、奇蹟を生む経典として、誦誦に写経にと、とても重要なお経なのであります。

日本では、江戸時代、白隠禪師の著作『延命十句観音経靈験記』

によって普及しました。『延命十句観音経』ともいいますが、この「永遠の命をいただく」という意味の「延命」の二字を付け加えたのは白隠禪師であります。

### 十句観音経

觀世音 南無仏  
 与仏有因 与仏有缘  
 仏法僧縁 常樂我淨  
 朝念觀世音 暮念觀世音  
 念念從心起 念念不離心

解釈としては、意識になります。が、「私どもは、仏さまの因と縁をいただいております。観音さまのことを朝な夕な念じ続けますので、どうか、そのお徳をお授け下さいます。」

さて、その徳とは、「常樂我淨」であります。〈常〉いつまでも変わ

らない、〈楽〉樂しみて満ちている、  
 〈我〉仏の大きな命に包まれてい  
 る、〈浄〉清らかで汚れない、と  
 いうことです。ただ、これらの徳  
 は、観音さま、仏さまの徳であつ  
 て、凡夫である我々には、本来か  
 なわないものであるということ  
 を、あらかじめ認識しておかなく  
 てはなりません。

たとへば、不幸にして子どもを  
 亡くされた方の場合、これまで通  
 り、ずっと楽しくと願つても、そ  
 れはかなわないことです。そのこ  
 とで、責任を追究し続けていたの  
 では、いがみ合うようなことにな  
 り、さらに悲惨な結果を招くこと  
 になりかねません。

「あの子は、観音さまの生まれ変  
 わりであったのだ。私に仏縁を結  
 ばせてくれるために、わざわざ私

の子となつて生まれきてくだ  
 されたのだ。」そう信じることで、  
 死んだ子も救われ、親も救われる  
 のです。そしてそこから、これま  
 でになかった、「楽」が生まれてく  
 るのです。

ともあれ、私どもは、この世を  
 無常であるのに、常であるときえ  
 たり、苦を楽と錯覚したりするの  
 は、貪りの心があるからだといさ  
 ます。病気になったら、完全に元  
 通りに治らなければ納得できな  
 かったり、老化現象なのに、若返  
 りを願うのは、欲が深いといわれ  
 ても仕方のないことです。

この貪りの心を持った欲の深い  
 人のことを、餓鬼といえます。こ  
 の餓鬼には、無財餓鬼・少財餓鬼・  
 多財餓鬼の三種あるそうです。

無財餓鬼は、財産がないわけで

すから、むしろ満足できません。少  
 財餓鬼は、少し持つていますが、や  
 はり、満足にはいたりません。多  
 財餓鬼は、立派な家に住み、大き  
 な車に乗つて、ブランド品で身を  
 包み、ぜいたく三昧していても、餓  
 鬼の性、満足できません。

努力して、頑張つて、頑張つて、  
 次から次へと欲しいものを手に入  
 れたとしても、それで満足できな  
 ければ、不幸なことです。無財餓  
 鬼も辛い、多財餓鬼は、欲の深  
 い分、より不幸だといえましょう。

一方、完全なる「常楽我浄」を  
 望むことなく、今ある現在に満足  
 し、「少欲知足」の心を育むことに  
 よつて、奇蹟も生まれ、永遠の命  
 をいただくこともできるのです。

本当に短いお経です。是非さら  
 んじて、唱えてみて下さい。

**無常** むじょう

サンスクリット語のアートヤの訳で、あらゆるものは消滅変化して、何一つ同じ状態にとどまってるものはないという意味です。

物事を冷静に観察すれば、まったくその通りなのですが、ついつい私たちは、明日もまた同じような日がやってくると思い込んでいます。ですから、誰かが突然、交通事故などで亡くなったりすると動転してしまいます。それに、『平家物語』の「諸行無常の響きあり……」の一節が日本人の胸には相当びびりついでいるらしい。「ああ、人生は無情だなめ」などと、「無常」を「無情」と同じ意味のよつに使うてしまうことが

多いようです。

でも、この世が「無常」でなかったら、どうなるでしょう。一年中、桜の花が満開のままだったり、生まれたばかりの赤ん坊が百年たっても同じ格好でオシメをしていたら、やは



**住職通信**

人間 死して命が一〇八の光（仏に）昇華して私達の六十兆億の身体の細胞を次から次へと望みを導く合掌 南無アミタ仏

り気持ちが悪いですよね。やっぱり、「無常」だからいいのです。（ひろさちや『仏教百科』）

**雑記**

▼感謝&お詫び

彩色灯明のご寄付を、戸崎幹正様・山本景子様・江崎エツ子様より頂戴いたしました。（順不同）感謝申し上げます。

ただ、盆施餓鬼会までに完成の予定が、彼岸施餓鬼会にも間に合わないかもしれないのと。今しばしのご猶予をいただきますよう、お詫びとお願いを申し上げます。

▼オリンピック

今回のオリンピックは、発祥の地ギリシャで行われ、これまでにないものを感じました。

そして、やはり、頂点を極める人の顔というのは、実にいい顔をしていますね。努力に拍手!!

▼表紙絵

これまでに、何度か紹介させて頂きました、小島とよ子様の盆画です。微妙な色合いが、とても素晴らしい「芙蓉」です。

▼白壁や夕日に染まる

醉芙蓉 沐魚